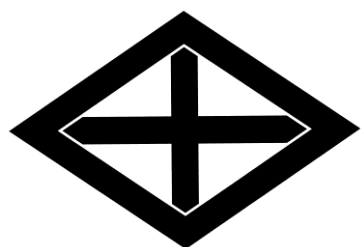


十津川村平谷地区まちづくり基本構想

別紙2



平成31年 3 月
十津川村



1. 地区の現況

(1) 十津川村の観光、暮らし、居住の重要地である

十津川温泉等の中心地

- 平谷地区は、バスセンターや良質な温泉を有する旅館等の宿泊施設、公衆浴場、商店、飲食店等が多く立地する温泉地である。
- 地区周辺には、**はてなし たまき** 果無集落、玉置神社、熊野古道等の観光資源が立地している。



公衆浴場「庵の湯」

村民の暮らしを支える生活サービス施設が集積

- 平成29年4月に開校した十津川第二小学校、みどり保育所、病院、銀行、郵便局、商店等、村南部の村民の暮らしを支える生活サービス施設が集積しており、生活拠点として重要な機能を有している。



十津川第二小学校

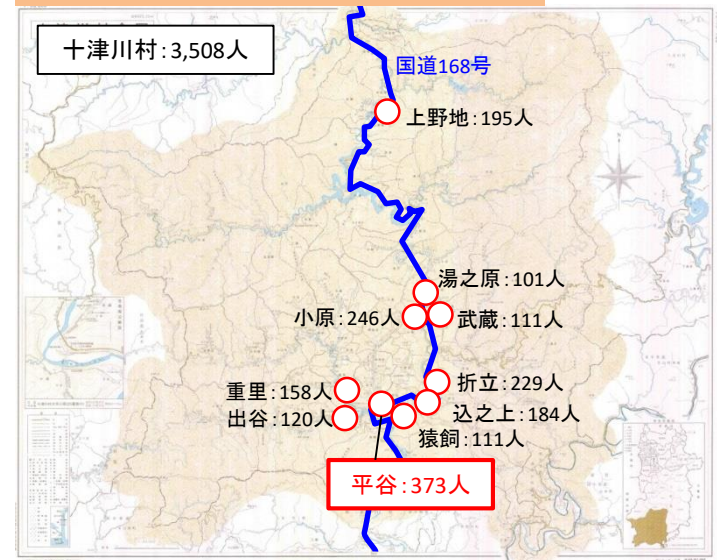
村内最大の居住地（集落）

- 平谷地区は、十津川村で最も人口の多い集落であり、村全体の約1割を占めている。
- 大字平谷は5つの番(鈴入、垣平、垣内、蕨尾、真砂瀬)で構成され、番ごとに役が置かれ番単位のみとまりがある。

●平谷地区に立地する施設



●十津川村の大規模な集落の分布 (人口100人以上の集落(H27))



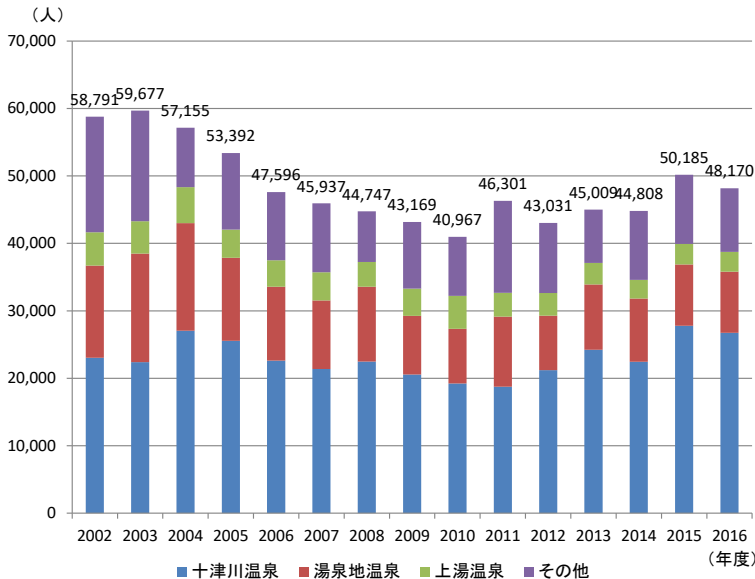
資料: 国勢調査

1. 地区の現況

(2) 十津川街道や熊野本宮に至る小辺路等の主要観光ルート上にある

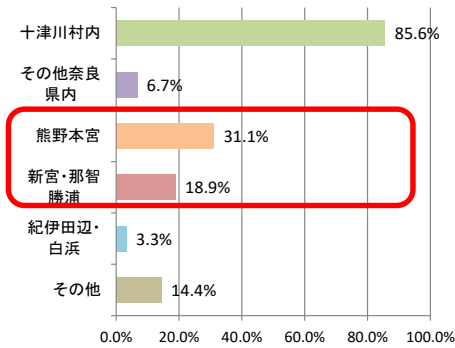
- 平谷地区は、十津川温泉の中心地であり、十津川村での宿泊客のうち、およそ半数以上が平谷地区で宿泊している。
- 平成23年の紀伊半島大水害以降、宿泊者へのキャッシュバックキャンペーン(平成27年)等の取組もあり、減少していた観光入込客数は近年持ち直している。
- 来訪者の多くが、「谷瀬の吊り橋」や「玉置神社」とあわせて、十津川村を目的地として来訪しているが、国道168号を南下した「熊野本宮」や「新宮市・那智勝浦町」とあわせて巡る来訪者も一定数いる。
- 今後、国道168号の整備進展により移動時間の短縮が図られることから、日帰り観光客の増加による宿泊者の減少が想定される。

●十津川村の宿泊者数の推移

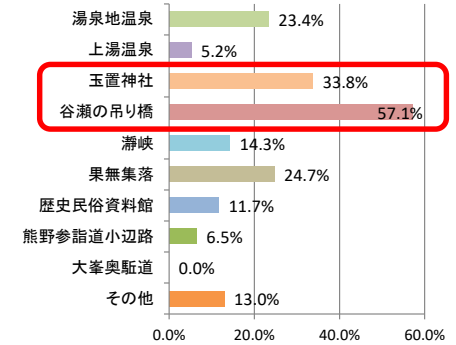


資料: 村政報告書

来訪場所(N=90)



村内での来訪場所(N=77)



資料: 十津川温泉(平谷地区)観光客アンケート(平成26年度実施)

●観光名所



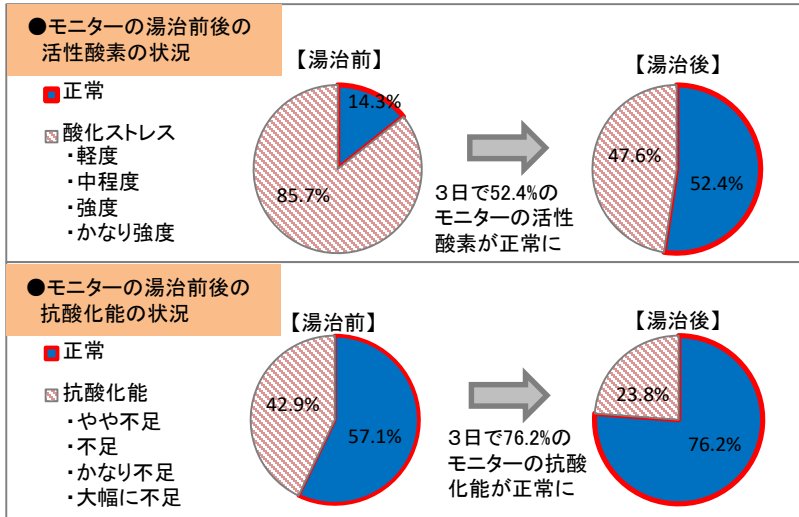
1. 地区の現況

(3) 温泉の効能は優れているが、温泉街としての佇まいが不足している

- ・ 宿泊客は、温泉を重視して訪れている。
- ・ 宿泊客が平谷地区に望むものとしては、温泉地としての雰囲気や楽しめる場(休憩スポット)等があげられている。

■温泉の効果

- ・ 十津川温泉郷の温泉に入ることにより、万病のもとである「活性酸素」の減少、疾病に打ち克つ力「抗酸化能」の増加に効果があり、療養効果が高いことが分かった。



資料:平成27年度温泉療養効果実証調査結果

■街なみ景観

- ・ カラー舗装やフットライト、木塀等を整備しているが、経年劣化が進んでいる。
- ・ 地区の街なみ、温泉地としての佇まいが感じられない。



カラー舗装

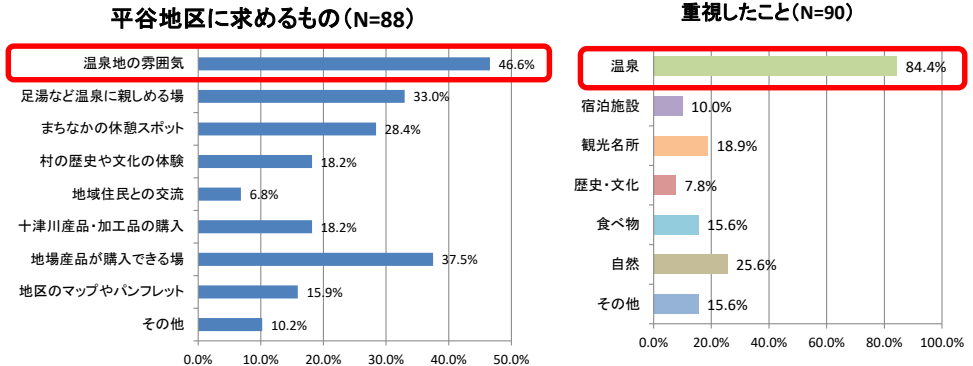


フットライトが組み込まれた木塀



温泉地としての景観の調和が必要

●来訪者が望む観光地としての要素



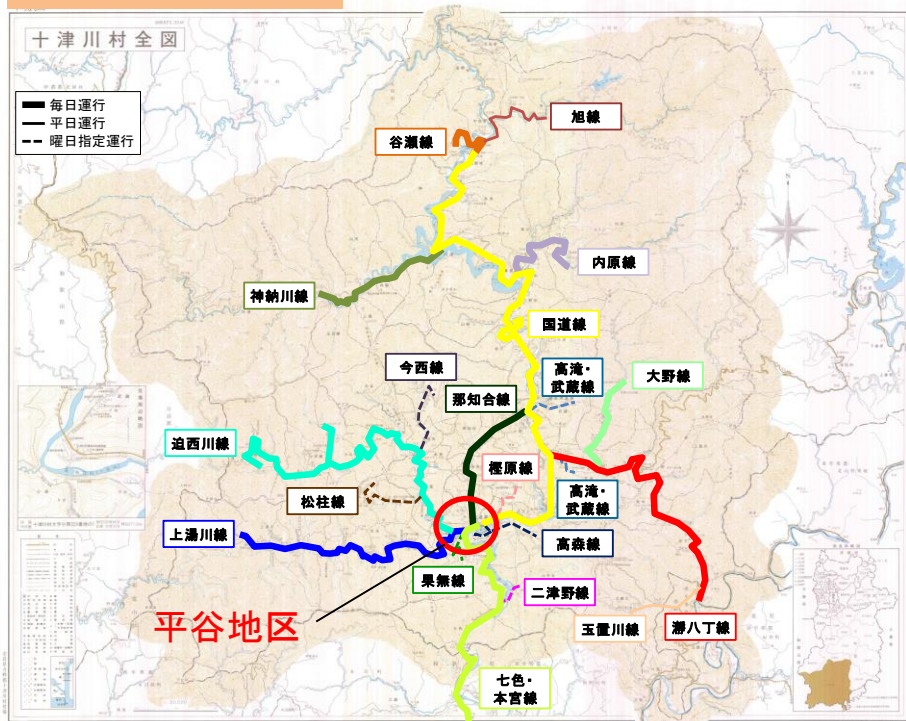
資料:十津川温泉(平谷地区)観光客アンケート(平成26年度実施)

1. 地区の現況

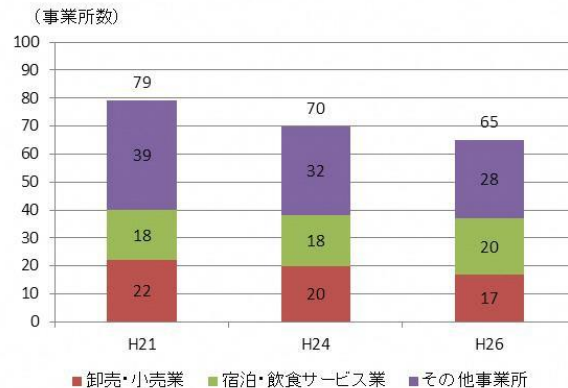
(4) 交通の結節点であり、生活サービス機能の集積がある

- 平谷地区は、バスセンターを起点としたバス路線の中心となっており、利便性が高く、食料品店をはじめ、物販店、ガソリンスタンド、飲食店等が集積している。
- しかしながら、地区内の事業所数は減少傾向にあり、特に、生活サービスを提供する卸売・小売業の減少が見られる。

●村営バス路線図



●事業所数の推移



資料: 経済センサス

<近年、村内企業等による新たな開業の動きがみられる>

- 平成29年12月には、村内の企業による、スーパーが開業する等、新たな展開が見られる。
- その他、コミュニティカフェや事務所(デザイナー、家具職人等)等も開設され、就業や事業の場となっている。
- また、後継者不在による閉店への対策として、和菓子店の後継者職人育成を行政施策として支援する等の取組を行ってきた。



コミュニティカフェ



スーパーの開業

- 近年開業等した店舗・事業所
- ・コミュニティカフェ
 - ・スーパー
 - ・家具工房
 - ・デザイナー

1. 地区の現況

(5) 住民による活性化の取組

地域の魅力を向上する取組として、平谷地区地域交流センターの管理運営・企画や新たな地域の取組等が進められており、これらの活動の継続や発展が地区の活性化の鍵となっている。

<住民組織による平谷地区地域交流センターの管理運営・企画>

- 地域交流センターの整備にあたっては、「平谷地域活性化に関する検討懇談会」での住民意見や来訪者アンケート結果を反映させる等、住民参加で計画づくりを行っている。
- 整備後の平谷地区地域交流センター「いこら」の管理運営についても、新たに設立された大字を中心とした住民組織が担っている。
- 住民組織による企画運営により、周辺地区からの利用者(西川朝市の会等)もあり、地区内外の住民等の集まる場になっている。
- また、地域の若者が中心となって結成した「十津川温泉活性化協議会」が、イベント等を開催している。



平谷地区地域交流センター「いこら」でのこけらおとしイベントの開催



クリスマスイルミネーションの設置
(飾りの製作を地域の保育所・小学校へ依頼)



懇談会での意見交換



<住民グループによる活性化の取り組み>

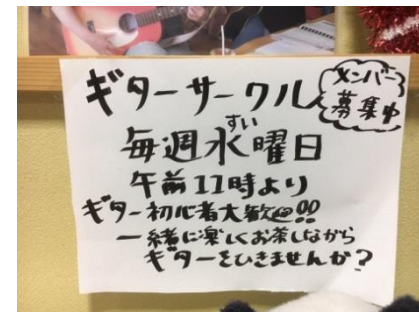
- 地域の回遊性を高める仕掛け(のれんラリー等)や、地域の魅力を向上、周知するための住民グループによる取組が行われている。(活動補助として村が支援)
- 活動スペースを活用して趣味のサークルが生まれる等、新たな自主活動のチャレンジが出てきている。



「十津川温泉活性化協議会」による
地域の商店等への「のれん設置」と「のれんラリー」の実施



支障木を使ったプランターの
設置と管理



コミュニティカフェを活用した活動

2. 地区の課題

◆地区の特性

特長

- **村民の暮らしを支える生活サービス施設が集積**
 - ・ 小学校や病院、郵便局、バスセンター、商店等、様々な施設が立地
- **観光資源が多い**
 - ・ 十津川村の宿泊者数の半数以上が平谷で宿泊
 - ・ 周辺に玉置神社、熊野古道等の観光資源が点在
- **村内で最も人口が多く、地域活動を展開**
 - ・ 村内の集落の中で人口が最も多く、餅つき踊りや地域活性化の取組等、テーマに応じた活動グループ結成等があり、主体的な取組を展開
- **公衆浴場、地域交流センター等の施設整備**
 - ・ 公衆浴場や地域交流センター等、地域の魅力や活力を向上させるための施設を整備

問題点

- **温泉地としての佇まいが求められている**
 - ・ 来訪者から「温泉地の雰囲気」を求める意見が強い
- **施設更新がされていない**
 - ・ カラー舗装やフットライト、木塀、サイン等の経年劣化が見られ、景観を損なっている
- **空き家や空き店舗の増加**
 - ・ 人口減少、事業主の高齢化、後継者不足等により、空き家や空き店舗が増加
- **地区内外をつなぐ仕組みがない**
 - ・ 村内の様々な活動・グループとの連携が弱い

◆地区の課題

生活拠点としての機能の低下

- 小学校や病院、郵便局、商店、ガソリンスタンド等が立地しているが、人口減少により、**日常生活を支える事業所が減少**してきている
- 生活の利便性の高い地区であり、借家の需要は高いが、空き家等の利活用による**移住者の受け入れにつながっていない**
- 周辺集落の高齢化が進み、自家用車等で平谷地区に通えない**交通弱者が増えている**

温泉地としての佇まいの不足

- 国道168号の整備により、谷瀬の吊り橋や果無集落、玉置神社、熊野本宮等の観光地に訪れやすくなり、**日帰り観光客の増加による宿泊者の減少の恐れがある**
- 旅館や公衆浴場等が立地し、道路等の修景が行われているが、施設の経年劣化により、**景観を阻害している**
- バスセンター、庵の湯、地域交流センター等がスポット的に整備されているが、**温泉地としての面的な雰囲気づくりが出来ていない**

活動継続のための担い手が減少

- 地区及び南部地域の人口減少により、地区の賑わいづくりや地域活動の**担い手が減少している**
- 地域交流センターの整備により、活動拠点ができ、新たな活動も生まれてきているものの、**活動の継続や地区内外の担い手をつなぐための仕組みが出来ていない**

3. コンセプト及び基本方針

<コンセプト>

暮らしと温泉が息づく活力ある地域づくり

平谷地区は、十津川村の南の玄関口として、明治末より様々な商業、生活サービス機能、公的サービスが集積した中心集落として発展してきた。また、元禄年間（江戸前期）に源泉が発見され、昭和30年代の二津野ダム整備と共に源泉を引湯し温泉地が形成された。

これら南部地域の生活拠点としての役割と暮らしの中に息づく温泉地としての特徴を生かし、村内外から様々な人を呼び寄せる地域づくりをめざす。

基本方針

南部地域での村の暮らしを支える生活拠点の維持・充実

- 南部地域の生活の拠点として、医療・福祉、買い物、教育、交通等の村民の暮らしを支えるサービス等を維持・充実させ、「平谷に行けば知り合いに会える」といった、村民同士が会い、交流する場を提供する。
- 生活の利便性が高い平谷地区で住まいや働く場を確保し、十津川村内外からの移住・定住を促進する。



温泉地としての「佇まい」と「おもてなし」の充実

- 地域の資源である温泉、食文化、自然環境等を活かし、村民と来訪者とが何気なく会話する、集落の祭りに来訪者が参加する等、暮らしの中に息づく温泉地らしい「おもてなし」の充実を図るとともに、来訪者が気持ちよくそぞろ歩きできるように、まちの「佇まい」を整える。



地域活力を創出する新たなチャレンジができる環境づくり

- 生活拠点、温泉地として、村内外から人が集まる立地条件を活かし、地域交流センター等を活用して行われている活動をさらに発展させ、やりがいや生きがいのある「生業」、店舗の新規開業等による新たな「暮らしの糧（雇用）」等、地域活力を生み出す環境づくりや担い手づくりを行う。



4. 基本となる取組

基本方針

南部地域での
村の暮らしを支える
生活拠点
の維持・充実

温泉地としての
「佇まい」と
「おもてなし」
の充実

地域活力を創出する
新たなチャレンジが
できる環境づくり

基本となる取組

<定住の住まい・環境づくり> <地域内子育て環境づくり>

村民の暮らしを支える生活サービス機能の充実

- ・ 事業者の継続支援、後継者育成支援等による日常的な買い物、医療、福祉、教育等の維持・充実
- ・ 生活拠点(平谷)と村外拠点や周辺集落を結ぶ公共交通の確保
- ・ バスセンターを交通結節点として待合環境・乗継利便等を向上させ機能を強化
- ・ 小学校や地域交流センター等を活用した、地域で子どもを見守り育てる子育ての環境づくり
- ・ 様々な世代が集い、交流できる場としての生活改善センターの有効活用の検討

<村内外から人を呼び寄せる移住誘致>

村内外からの住み替え先としての住まいの確保

- ・ 地区の利便性の良さを活かし、空き家活用等による住み替えや移住先としての住まいの確保と改修支援

<十津川温泉郷の回遊できる温泉街づくり>

そぞろ歩きしたくなる「佇まい」のある温泉地づくり

- ・ 案内・誘導サイン、温泉等に触れられる小公園、眺望を楽しめる景観スポットの整備による回遊性の向上
- ・ 温泉地らしい「佇まい」を考えた公共施設や建物・植栽等の修景整備
(建物のファサード改修や日よけのれん等の統一感のある街なみの演出、フットライトによる夜間景観の演出)
- ・ 身近な生活インフラの再整備(ごみステーション修景や排水溝の更新等)
- ・ 車の進入抑制等、安全な歩行者空間のあり方の検討

<村民“おもてなし”型観光の確立>

事業者・村民・行政が一体となった「おもてなし」の提供

- ・ バスセンター周辺における情報発信機能の強化(空きスペースを活用した観光案内機能等の強化、施設のファサードの木質化)
- ・ 源泉かけ流しの温泉とその療養効果、村の食材を利用した郷土料理等の魅力の発信
- ・ 祭りや食文化、集落風景、地区周辺の観光資源、自然環境等を活かした村民がもてなす村ぐらし体験型プログラムの開発
- ・ 地域交流センター「いこら」を活用した村民と来訪者との交流の場づくり

<村の資源を生かした新たな産業興しの支援>

生活拠点、温泉地として人が集まることを活かした新たな「暮らしの糧」づくり

- ・ 地域交流センターや空き店舗を活用した新たなチャレンジが出来る場づくり

<村内外の団体等との連携と協働の推進>

平谷地区の賑わいづくりに向けた新たな担い手づくり

- ・ 地区内外の取組をつなぎ、新たな地域活力やチャレンジが生まれる仕組み(組織)の強化
- ・ 具体的な活動を担う地域団体の活動支援

5. 基本構想図

◆まちづくり構想図

事業者・村民・行政が一体となった「おもてなし」の提供

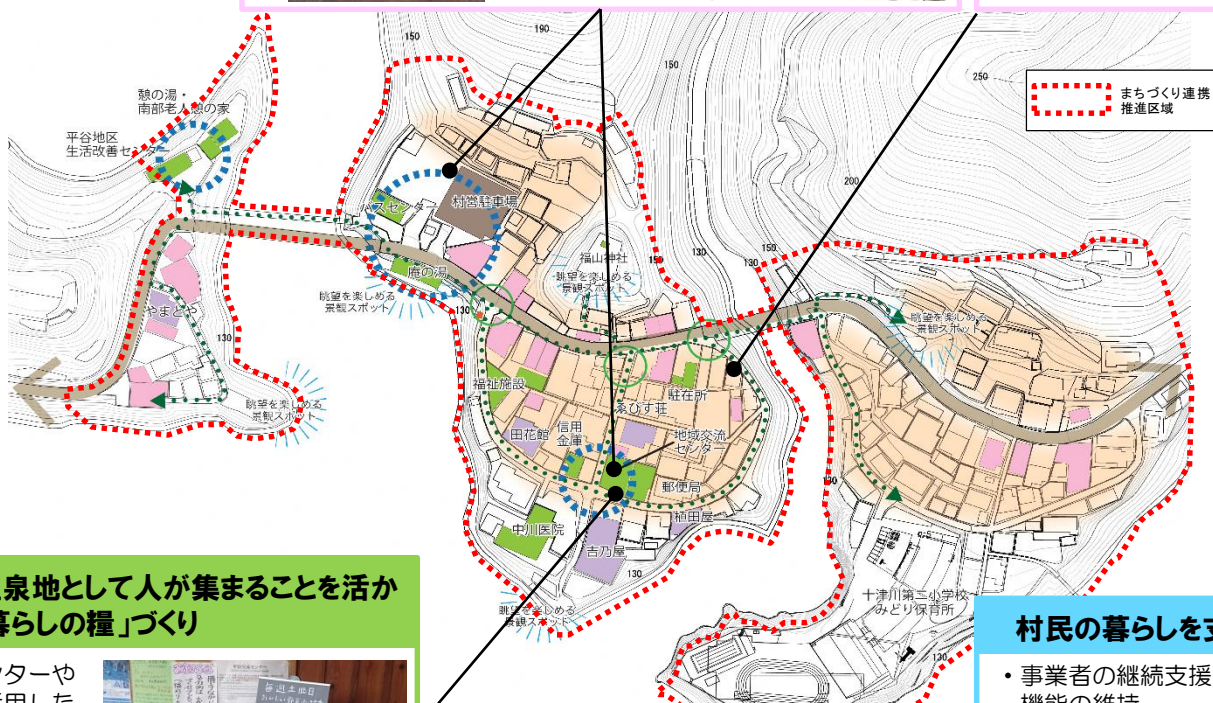
- ・バスセンター周辺の観光案内等の情報発信機能の強化
- ・祭りや食文化、観光資源等を活かした村民がもてなす村ぐらし体験型プログラムの開発
- ・地域交流センター「いころ」を活用した村民と来訪者との交流の場づくり



そぞろ歩きしたくなる「佇まい」のある温泉地づくり

- ・サイン整備や景観スポット等の整備による回遊性の向上
- ・温泉地らしい「佇まい」を意識した植栽等の修景整備
- ・安全な歩行者空間のあり方の検討

<街なみ修景整備>



平谷地区の賑わいづくりに向けた新たな担い手づくり

- ・地区内外の取組をつなぎ、新たな地域活力やチャレンジが生まれる仕組みの強化
- ・地域団体の活動支援



生活拠点、温泉地として人が集まることを活かした新たな「暮らしの糧」づくり

- ・地域交流センターや空き店舗を活用した新たなチャレンジが出来る場づくり



村内外からの住み替え先としての住まいの確保

- ・空き家等を活用した住み替え先としての住まいの確保と改修支援

村民の暮らしを支える生活サービス機能の充実

- ・事業者の継続支援等による生活サービス機能の維持
- ・生活拠点（平谷）と村外拠点や周辺集落を結ぶ公共交通の確保
- ・バスセンターを交通結節点として待合環境・乗継利便等を向上させ、機能を強化
- ・様々な世代が集い、交流できる場としての生活改善センターの有効活用の検討

